

# 古賀駅東口 駅前広場の現況と必要規模について

---

# 現況と算定の基礎・算定面積

## (1) 駅前広場の現況・施設量

・JR古賀駅東口駅前広場の現況の機能・規模は下図及び下表のとおり。

JR古賀駅東口駅前広場の現況と施設量



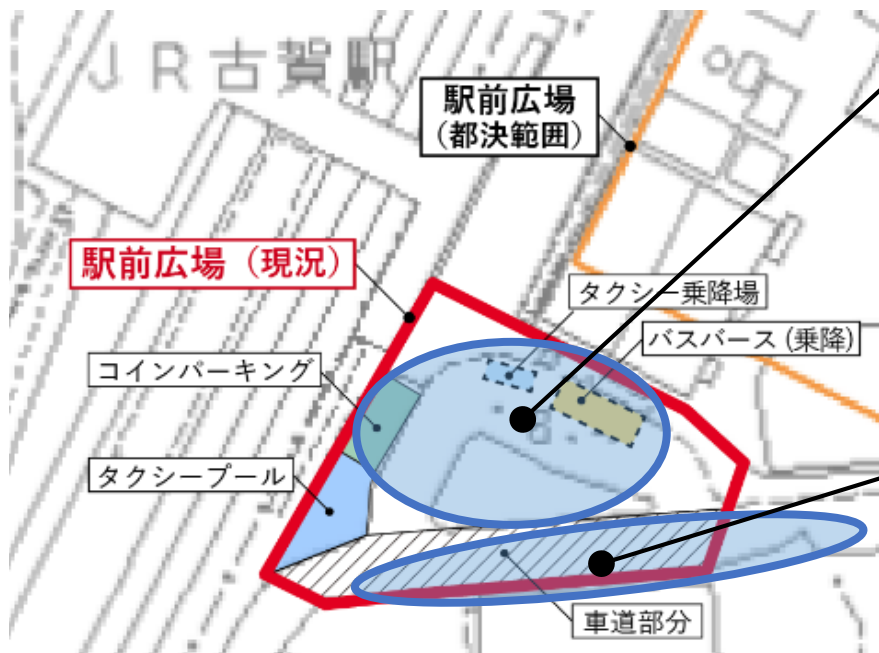
区分	現況	備考
規模	1,050m <sup>2</sup>	道路部分350m <sup>2</sup> を含む
バスバース	1	乗降バース
タクシー乗降	1	
タクシープール	4	
乗用車駐車場	4	コインパーキング
駐輪場	—	広場に面して駐輪場が設置
その他		歩道

# 現況と算定の基礎・算定面積

## (2) 駅前広場の現況・施設量

- ・古賀駅東口駅前広場は、交通結節点としての機能強化、滞留空間の高質化、歩行者動線の確保等が求められている。
- ・駅前の停車バースが少ないことから、送迎時等には駅前広場内だけでなく車道部分にも一般車等が待機し、混雑が生じるなど課題を抱える。

混雑時の駅前広場・車道の様子

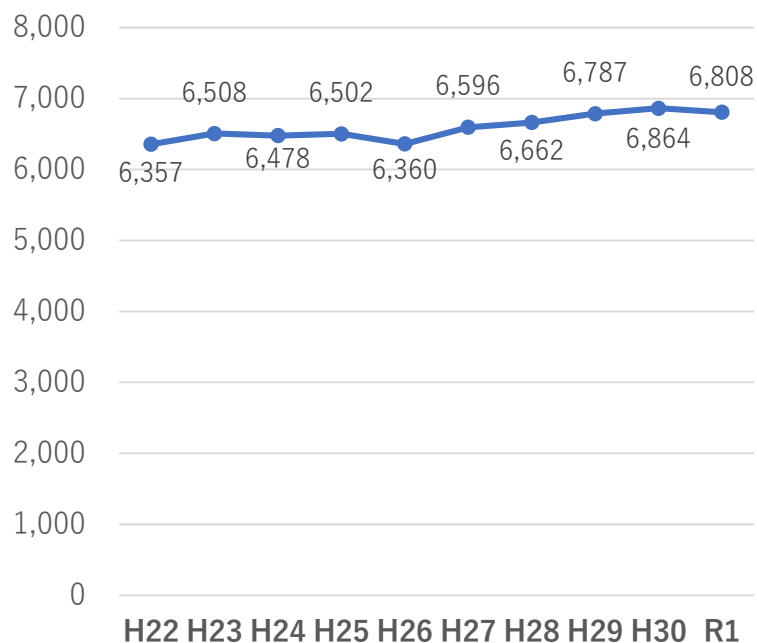


# 現況と算定の基礎・算定面積

## (3) JR古賀駅乗客数と開発による増加

- ・近年の古賀駅の乗客数は6,000人中盤～後半を推移。
- ・駅前整備による人口増は、1,150人程度の人口増、駅利用者として約800人の増加が見込まれる。

直近10年のJR古賀駅乗客数の推移[参考]



※JR九州

駅前開発による増加人口及び駅利用者増加数（想定）

敷地面積	約1.6ha	令和元年度検討資料より
住宅戸数	約500戸	容積率200～300%程度と想定し、住戸面積60～80㎡とした場合
居住人口	約1,150人	住戸数×古賀市平均世帯数2.3（R1）
駅利用者増加数（日）	約800人	居住人口に「第5回北部九州圏PT調査」の数字を用いて算出

# 現況と算定の基礎・算定面積（計算上の参考値）

## (3) 駅前広場に求められる機能・面積

- ・駅前広場設計指針に基づき、算定した駅前広場の計算上の参考値は下表のとおり。

### 駅前広場の規模算定（駅前広場設計指針による算定値）

項目			規 模		備考
			施設数	面積	
交通空間 基準面積	バス	乗降バース	2	140m <sup>2</sup>	※開発による想定駅利用者増加数として800人を算定に加算
		滞留空間	-	10m <sup>2</sup>	
	タクシー	乗降バース	2	40m <sup>2</sup>	
		滞留空間	-	10m <sup>2</sup>	
		タクシープール	2	60m <sup>2</sup>	
	自家用車	乗降バース	4	80m <sup>2</sup>	
		駐車場	0	0m <sup>2</sup>	
	身障者用	駐車場	1	20m <sup>2</sup>	
	車道面積		-	970m <sup>2</sup>	
歩道		-	240m <sup>2</sup>		
環境空間面積（歩道除）			-	1,100m <sup>2</sup>	
<b>合 計</b>			<b>-</b>	<b>2,670m<sup>2</sup></b>	

地区の現状に対応するため、現況駅前広場機能の施設数を確保した場合の規模についても算出

# 現況と算定の基礎・算定面積（計算上の参考値）

## (3) 駅前広場に求められる機能・面積

- ・駅前広場設計指針に基づいた算定に加え、現況機能を確保した場合の駅前広場の計算上の参考値は下表のとおり。

### 駅前広場の規模算定（現況機能分の面積を加算した参考値）

項目			規 模		備考
			施設数	面積	
交通空間 基準面積	バス	乗降バス	2	140m <sup>2</sup>	※開発による想定駅利用者増加数として800人を算定に加算 ※現況の機能については、施設数を確保して算出（タクシープール1台増、自家用車乗降バス1台増、自家用車駐車場4台増） ※企業用の送迎バスの乗降は、自家用車乗降バスで行う
		滞留空間	-	10m <sup>2</sup>	
	タクシー	乗降バス	2	40m <sup>2</sup>	
		滞留空間	-	10m <sup>2</sup>	
		タクシープール	3	90m <sup>2</sup>	
	自家用車	乗降バス	6	120m <sup>2</sup>	
		駐車場	4	120m <sup>2</sup>	
	身障者用	駐車場	1	20m <sup>2</sup>	
	車道面積		-	970m <sup>2</sup>	
歩道		-	240m <sup>2</sup>		
環境空間面積（歩道除）			-	1,280m <sup>2</sup>	
<b>合 計</b>			-	<b>3,040m<sup>2</sup></b>	

これら2つの面積は計算上の参考値であり、2,670m<sup>2</sup>～3,040m<sup>2</sup>の間に収まるよう、諸施設の配置を検討して実際の面積を決定